

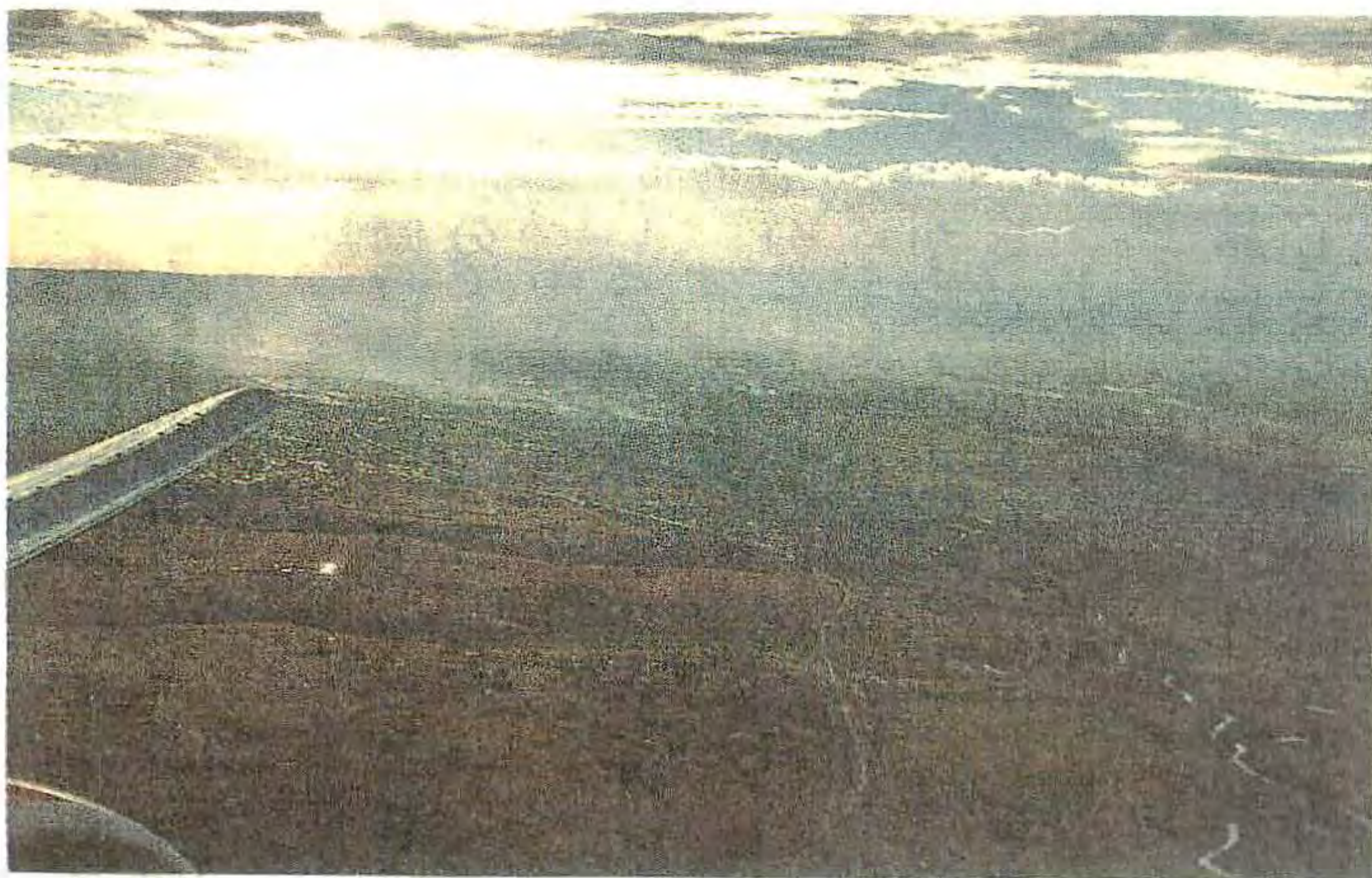
# ネーチャー・ウォッチ



## 絶え間なく変化する気象 ⑨

赤道直下、東アフリカ上空を飛行する航空機に乗っていた名古屋大学の安成哲三教授は、焼き畑によるとみられる煙があちらこちら

で立ち上っているのを見つけた。アフリカの多くの地域では東南アジアや南米と並び、焼き畑による森林破壊が進んでいる。最近のバ



焼き畑とみられる煙が立ち上る(東アフリカ上空)

### 森林破壊

## 耕地化で雨量減少も

イオ燃料の利用拡大は、トウモロコシなど原料作物の生産増を目的に森林を農地に変える動きに拍車をかけている。

耕地化の過程で森林喪失が進めば、温暖化ガスである二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の濃度上昇につながる。一方で、煙の微粒子が太陽光を反射して地上の気温を低下させる可能性もある。しかし、それだけではなく土地利用の変化自体が、気象変化の大きな要因になりうることもわかってきた。

地表が森林で覆われていると、海などから入り込んだ水蒸気の流れが摩擦で遮られる。このため上昇気流などによって水蒸気が集まる作用が働き、雨が降りやすくなる。しかし、森林が伐採され平らな農地になると摩擦は減るので水蒸気は素通りし、雨は減少傾向となる。東南アジアでは森林破壊に連動して、実際に雨期の降水量が減ったという報告もある。気候変動の正確な理解には、大気と生態系との相互作用まで含めた総合的な研究が欠かせない。